

観 点 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	2・東書	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 101 道徳 201 道徳 301 道徳 401 道徳 501 道徳 601	新訂 あたらしいどうとく 1 新訂 新しいどうとく 2 新訂 新しいどうとく 3 新訂 新しいどうとく 4 新訂 新しい道徳 5 新訂 新しい道徳 6
取 扱 内 容 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等	○ 主として自分自身に関することのうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 主人公が、自分のよいところを友達に見付けてもらって嬉しくなる物語を教材として、自分や友達のよいところを伝えたり見つめ直したりする活動（「ええところ」） 第2学年～ 周囲にせかされることの多い少年が、友達の探し物を見付け出す物語を教材として、少年が友達の探し物を見付け出せた理由を考える活動（「ありがとう、りょうたさん」） 第3学年～ 一つ一つ形の違うジャガイモとクラスの友達とを重ね合わせて考える物語を教材として、いつの間にか歌いながらジャガイモを見つめる主人公の心情を想像する活動（「じゃがいもの歌」） 第4学年～ 一人一人の得意なことを生かして大嵐から村を救った4人兄弟の物語を教材として、力を合わせて大嵐に立ち向かう際の4人の思いを考える活動（「うめのき村の四人兄弟」） 第5学年～ 自らが感動したことを描き続けて自分の絵の世界を創り上げたパブロ・ピカソの実話を教材として、ピカソの作品にかける思いについて考える活動（「感動したこと、それがぼくの作品～パブロ・ピカソ」） 第6学年～ 「一人前のケーキ職人になる」という夢をかなえた遠藤正俊さんの実話を教材として、遠藤さんのケーキ作りにかける思いを想像する活動（「あこがれのパティシエ～しょうらいの夢を語ろう」） ○ 主として人との関わりに関することのうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ やまがらの誕生日に行くか、うぐいすの家での音楽会練習に行くか迷うみそさざいの姿を描いた物語を教材として、やまがらのもとに駆け付けるみそさざいの思いを考える活動（「二つのことり」） 第2学年～ よその家で木登りをして怒鳴られ、転んで一人だけ逃げ遅れた仲間を助けるためにその家に戻った話を教材として、自分ならどうするかについての考えを交流する活動（「ともだちやもん、ぼくら」） 第3学年～ 宿題の答えを教えてくれなかった友達に対して腹を立てた「ぼく」が、なぜ教えてくれなかったのかを考える物語を教材として、「教えられない」という言葉に込められた思いについて考える活動（「なかよしだから」） 第4学年～ 仲のよい友人から届いた定形外の絵はがきの料金が不足していたことを伝えるかどうか思い悩む物語を教材として、主人公が迷う気持ちや行動について交流する活動（「大きな絵はがき」） 第5学年～ 首切りを言い渡された男が一時帰宅する間の身代わりを引き受けた男に国王が疑って腹を立て、「帰ってこなければお前を切る」と賭けをする物語を教材とし、友達がいてよかった出来事を交流し合う活動（「友の命」） 第6学年～ 自分だけが会話の中で「ばかじゃん！」と言われると感じた主人公が、友達にそのように言う理由を問うと、誤解と分かった物語を教材として、主人公の思いを考える活動（「ばかじゃん！」） ○ 主として集団や社会との関わりに関することのうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ キツネに狙われた我が子を逃がそうと立ち向かうカヤネズミの母親の物語を教材として、一度は逃げた子ネズミが、母親を助けに戻ってきた理由を考える活動（「かやねずみの おかあさん」） 第2学年～ 妹の看病で授業参観に来なかった母親に腹を立てていた少年が妹には優しくできた物語を教材として、「ぼく、おにいちゃんだもん」と言った思いを交流する活動（「だって おにいちゃんだもん」） 第3学年～ 耳の聞こえない母親をもつ少女が、母親にあてて書いた手紙を教材とし			

	て、少女が手紙を書こうとした思いについて考える活動（「耳の聞こえないお母さんへ」） 第4学年～ 自分がした手伝いに対する請求書を母に手渡した主人公と、主人公にお金を請求しなかった母の対比を描いた物語を教材として、家族の中の自分のこれまでの行動について振り返る活動（「お母さんのせいきゅう書」） 第5学年～ 自分のために、父親が、夜、遠いところまで行って卵を分けてもらい、母親が卵焼きを作ってくれたことを知った主人公の話を教材として、幼い日の感動をかみしめる主人公の思いを考える活動（「卵焼き」） 第6学年～ 大好きな祖母が自分のことなどを忘れていく様子を、孫である主人公が徐々に受け入れていく物語を教材として、祖母の様子を受け入れられるようになった理由を考える活動（「おばあちゃんのさがしもの」） ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関するもののうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 生まれてから10日間、ハムスターの赤ちゃんがお母さんハムスターに大切に育てられながら大きくなっていく様子を教材として、生まれたてと10日目の様子を比較しながら感じたことを交流する活動（「ハムスターのあかちゃん」） 第2学年～ 誕生日に生まれた頃の話をしてもらった少女が、母親の「大きくなってうれしい」という一言を素晴らしいプレゼントだと感じた物語を教材として、自分が生まれた頃の様子を聞く活動（「たんじょう日」） 第3学年～ 東日本大震災で祖父母を失った少年が、祖父母との楽しい思い出に支えられて前向きに生活する物語を教材として、少年が祖父母に見てほしいと感じている姿を考える活動（「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね」） 第4学年～ 生まれつき心臓の悪い少年が抱く「江ノ電の運転手になる」という夢を周囲の人々の連携で叶える物語を教材として、「生まれてきてよかった？」と聞く少年に自分ならどう答えるのかを考える活動（「走れ江ノ電 光の中へ」） 第5学年～ 大やけどを負ったコースチャ君を札幌医大に救急搬送し治療した実話を教材として、コースチャ君を救うために多くの人々が協力したのはどのような思いからかを考える活動（「コースチャぼうやを救え」） 第6学年～ 東京大空襲の日に出産し、医師や看護師の協力で母子ともに避難できた女性の回想を教材として、戦火の中でも全ての患者を守ろうとする看護師達の姿から感じたことを交流する活動（「東京大空襲の中で」）
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・いじめの問題については、「いじめ」を題材とした「直接的教材」と「いじめ」を題材とせずに「いじめをゆるさない心」を育てる「間接的教材」を組み合わせた構成とし、いじめ防止の効果を高められることができるよう工夫がなされている。 ・情報モラルへの対応については、該当する単元に「じょうほうモラル」のマークを付け、児童が自ら主体的に情報モラルについて学ぶことができるよう工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年に、学習の進め方や「話し合いの約束」、コミュニケーションを通して道徳的価値について考える「出会う・ふれ合う」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるよう工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、第3学年以上に、問題解決的な学習に対応した教材「問題を見つけて考える」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年に、体験活動との関連を図った教材を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは12教材、Bは9教材、Cは10教材、Dは6教材、Eは9教材、全体で46教材であり、総ページ数は125ページで、前回より約6%増となっている。（判型はA B判）

	第2学年～ Aは10教材、Bは10教材、Cは10教材、Dは8教材、Eは10教材、全体で48教材であり、総ページ数は143ページで、前回より約4%増となっている。(判型はAB判) 第3学年～ Aは11教材、Bは9教材、Cは13教材、Dは8教材、Eは11教材、全体で52教材であり、総ページ数は165ページで、前回より約3%増となっている。(判型はAB判) 第4学年～ Aは11教材、Bは9教材、Cは13教材、Dは8教材、Eは11教材、全体で52教材であり、総ページ数は169ページで、前回より約3%増となっている。(判型はAB判) 第5学年～ Aは9教材、Bは8教材、Cは15教材、Dは9教材、Eは12教材、全体で53教材であり、総ページ数は181ページで、前回より約3%増となっている。(判型はAB判) 第6学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは10教材、Eは12教材、全体で53教材であり、総ページ数は197ページで、前回より約3%増となっている。(判型はAB判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年に、「学習の記録」や「学習のふり返し」、1年間の学習を振り返る「かがやく自分に」、「学習のまとめ」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年に、家庭や地域との連携を促す「付録つながる広がる」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市について本文1点、それ以外についての北海道について本文2点、写真や地図等の掲載が6点あり、下記の内容が詳しく掲載されている。 ・第5学年の「ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ」では、旭山動物園の名を全国に広めるきっかけとなった「ペンギン館」の計画・実現に携わった人々の熱意や真理を求める姿が掲載されている。旭川市に住む子どもたちにとって馴染みある動物園であるが、よりよく知り、興味・関心の高まりが期待できる教材である。 ・第4学年の「コースチャぼうやを救え」では、大やけどを負ったコースチャ君をサハリン州から札幌医大に救急搬送し、治療を行ったという1990年の実話が掲載されている。サハリン州と北海道の地理的な近さのみならず、迅速な対応や関係機関の連携が浮き彫りとなる教材で、児童の興味・関心の高まりが期待できる教材である。 ○ ICTの活用については、Dマークがついている教材について、インターネットを活用して教材内容に関連した動画を見ることで、児童が興味・関心を高めたり学習をさらに深めたりすることができるよう工夫がなされている。 ○ 小・中連携による指導については、「これからもかがやく自分に」により一年間の学習を振り返り、中学校生活に思いを膨らませることができるよう配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、これまでの読み物教材とは異なった形式の教材を取り入れ、多様な考えを引き出せるよう構成されている。また、考えるための手順となる「考えよう」「考えるステップ」「出会う・ふれ合う」を配置し、児童が道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるよう工夫がなされている。 ○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、巻末には「学習のまとめ」が設けられており、授業後や長期休業前に学習を振り返って、心に残った話、感じたことや考えたこと、これからの生活に生かしたいことを記述できるよう工夫がなされている。また、それらを通して、自分自身の成長を実感し、これからの課題や新たな目標を見付けることができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が1冊で構成されている。

観 点 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	11・学図	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 102, 道徳 103 道徳 202, 道徳 203 道徳 303, 道徳 303 道徳 402, 道徳 403 道徳 502, 道徳 503 道徳 602, 道徳 603	かがやけみらい しょうとく 1ねん きづき, まなび かがやけみらい 小学校 しょうとく 2年 きづき, まなび かがやけみらい 小学校 しょうとく 3年 きづき, まなび かがやけみらい 小学校 道徳 4年 きづき, まなび かがやけみらい 小学校 道徳 5年 きづき, まなび かがやけみらい 小学校 道徳 6年 きづき, まなび
取 扱 内 容 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等	○ 主として自分自身に関することのうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 登場人物が大好きなことを発表するお話を教材として、自分や友達のよさに気付く大切さについて考える活動（「すてきが いっぱい」） 第2学年～ 頭に「とりあえずの花」がのっているかっぱが自分のよさを探す旅に出る物語を教材として、自分のよさをじっくり見つめる活動（「はなかっぱの大ぼうけん」） 第3学年～ 偏見に負けず夢に向かい諦めない山下清さんの生き方を教材として、夢に向かって努力する大切さについて考える活動（「清のゆめー山下清ー」） 第4学年～ 「明日のジョー」の作者のちばてつやさんが自分の好きな漫画の道にまっすぐに進んだ生き方を教材として、自分が心から好きなものを見付け、それを伸ばすためにどうしたらいいかを考える活動（「本当に好きなことは」） 第5学年～ ドッジボールの時や何気ない学校生活での友達の長所に目を向ける物語を教材として、普段は気付けない友達や自分の長所に目を向ける活動（「明の長所」） 第6学年～ ノーベル賞をとった田中耕一さんの小学校時代の学校生活を教材として、人と比べずに、自分らしさを大切にすることを考える活動（「作業服のノーベル賞（田中耕一）」）			
	○ 主として人との関わりに関することのうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ やまがらの誕生日に行くか、うぐいすの家での音楽会練習に行くか迷うみそさざいの姿を描いた物語を教材として、やまがらのもとに駆け付けるみそさざいの思いを考える活動（「二わのことり」） 第2学年～ 2匹のみつばちが競争する物語を教材として、友達が困っていた時にはどのように行動するとよいかについて考える活動（「ゆっきと やっち」） 第3学年～ ワールドカップで世界一になったなでしこジャパンの2人の友情を教材として、友達を励ましたり、励まされたりした経験を振り返る活動（「ナホとメグーいつもいっしょだねー」） 第4学年～ 仲のよい友人から届いた定形外の絵はがきの料金が不足していたことを伝えるかどうか思い悩む物語を教材として、主人公が迷う気持ちや行動について交流する活動（「絵葉書と切手」） 第5学年～ 学級で男子、女子の仲を冷やかされるが、男女をこえて協力したり、本音で話したりすることの大切さについて書かれた物語を教材として、男女に関係なく、仲良く過ごすために大切なことを考える活動（「言葉のおくりもの」） 第6学年～ 突然の病気で療養生活に入りながら病気に負けまいと頑張る友と主人公の関わりや感動の思いを書いた物語を教材として、友達との心の通った関わり方について考える活動（「友の肖像画」）			
	○ 主として集団や社会との関わりに関することのうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 登場人物が得意なお手伝いを発表するお話を教材として、家族のためにお手伝いをする大切さについて考える活動（「おてつだいじまん」） 第2学年～ コアラの姉が父に抱っこされている妹を羨む物語を教材として、両親にとってどの子もかけがえのない宝物であることを考える活動（「コアラのココちゃん」） 第3学年～ 自分がした手伝いに対する請求書を母に手渡した主人公と、主人公にお			

	金を請求しなかった母の対比を描いた物語を教材として、家族の中の自分のこれまでの行動について振り返る活動（「ブラッドレーのせいきゅう書」） 第4学年～ 忙しい両親に代わって、様々なことを主人公に教えてくれる祖父母の物語を教材として、家族がいることのありがたさについて考える活動（「みそしると自転車」） 第5学年～ 父親が入院して看病のため忙しい母親に代わり、家事をする女の子の物語を教材として、家族の一員としてどのようなことができるかを考える活動（「ベルフラワー」） 第6学年～ ダウン症である書家の金澤翔子さんとそのお母さんの生き方を教材として、家族の深い愛情について考える活動（「お母様、幸せ？（金澤翔子）」） ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関するもののうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 生まれてから10日間、ハムスターの赤ちゃんがお母さんハムスターに大切に育てられながら大きくなっていく様子を教材として、生まれたてと10日目の様子を比較しながら感じたことを交流する活動（「ハムスターの あかちゃん」） 第2学年～ 長谷川義史さんの「おへそのあな」を描いた物語を教材として、母親の喜びや自分の大切な命について考える活動（「おへそのあな」） 第3学年～ 主人公たちがいじめていたヒキガエルを、荷車を背負ったロバがひかないようによけて通っていった姿に心打たれる物語を教材として、命の尊さについて考える活動（「ヒキガエルとロバ」） 第4学年～ 宮越由貴奈さんの生き方や詩を教材として、自分の命の大切さについて考える活動（「電池が切れるまで」） 第5学年～ 6歳で生涯を終えた秋雪君のお母さんの手記を教材として、命の大切さと今を生きていくことの大切さについて考える活動（「たったひとつのたからもの」） 第6学年～ 救命救急センターと集中治療室を結んだドクターヘリに関わる人々の活動を描いた物語を教材として、一つの命を救うためにどのような人たちが関わり、努力しているかについて考える活動（「命をつなげ！ドクターヘリ」）
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・いじめの問題については、「ともにいきる」マークをいれ、深く考え他者と学び合うことを通して、互いに尊重し合い、ともによりよい社会を築く態度を養うことができるよう工夫がなされている。 ・情報モラルへの対応については、各学年で児童の発達段階に合わせながら、生活場面に即した教材を掲載し、系統的に配置がなされている。また、情報モラルに関する教材にマークを付け、教材を配置するなどの工夫がなされている。 ・言語活動については、各学年の別冊に、道徳的課題について主体的に取り組むことができる発問「かんがえよう」や自らの生活や考えを見つめ、振り返る発問「みつめよう」等のマークを配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるように工夫がなされている。 ・問題解決的な学習については、各学年の別冊に、主体的に道徳的課題に気付き、焦点化して考える発問を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・体験的な学習については、各学年の別冊に、役割演技を通して道徳的価値の理解を深める「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは10教材、Dは7教材、Eは4教材、全体で39教材であり、総ページ数は別冊を含め164ページで、前回より約2%減となっている。（判型はA B判）

	第2学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは12教材、Dは6教材、Eは4教材、全体で40教材であり、総ページ数は別冊を含め160ページで、前回より約9%減となっている。(判型はA B判) 第3学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは6教材、Eは5教材、全体で40教材であり、総ページ数は別冊を含め180ページで、前回より約4%減となっている。(判型はA B判) 第4学年～ Aは10教材、Bは8教材、Cは11教材、Dは6教材、Eは5教材、全体で40教材であり、総ページ数は別冊を含め184ページで、前回より約10%減となっている。(判型はA B判) 第5学年～ Aは9教材、Bは7教材、Cは13教材、Dは6教材、Eは5教材、全体で40教材であり、総ページ数は別冊を含め200ページで、前回より約2%減となっている。(判型はA B判) 第6学年～ Aは9教材、Bは7教材、Cは13教材、Dは6教材、Eは6教材、全体で41教材であり、総ページ数は別冊を含め200ページで、前回より約2%減となっている。(判型はA B判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年に、道德の学びを、自分のこれらにつなげていくことを意識させる「つなげていこう」を配置し、自らの道德的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年の別冊に、学習内容を解説し、家庭教育との連携を図ることを目的とした「保護者の方へ」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道德の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市については掲載されていない。それ以外の北海道の本文・コラムの掲載がそれぞれ2点ある。 ・第3学年の「森のいのち」では、北海道の森の大地に横たわるエゾマツ、トドマツ等の倒木、草や花や虫のいのちが土へかえる。いくつものいのちが森という大きないのちをつないでいることに気づかされることから、興味・関心の高まりが期待できる教材である。 ・第4学年の「みそしると自転車」では、北海道の祖父母が一週間泊まってくることになった。家が狭くきゅうくつな思いをするので嫌であったが、おじいちゃんがゆがんだ靴箱を修理したり、曲がった掛け時計を直したりした。おばあちゃんから、おいしい味噌汁を教わった。祖父母に対する思いの変化が読み取れる教材である。 ○ ICTの活用については、各教材にQRコードで補助資料を付けるなど、教材の理解を深めることができるよう工夫がなされている。 ○ 小・中連携による指導については、別冊道德ノート「まなび」において、心に残った話や、考えたこと、感じたことを振り返り、書くページを設けており、児童一人一人が成長の実感を持ち、中学校へ進級できるよう配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道德的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、「きづき」と「まなび」の2冊の教科書で構成し、道德的価値に気付いたり、自らの考えをもって友達と交流したりする中で、多様な考えに出会えるよう構成されている。また、学習の進め方を示すガイダンスページを配置し、児童が道德的価値を多面的・多角的に考えることができるよう工夫がなされている。 ○ 道德的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、教科書「まなび」には「心のパレット」が設けられ、児童が道德的価値を見つけて自分に引き寄せることができる工夫がなされている。また、道德的価値を自分事として考えることができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が本冊と分冊の2分冊で構成されている。

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 104 道徳 204 道徳 304 道徳 404 道徳 504 道徳 604	しょうかくどうとく1 はばたこうあすへ 小学どうとく2 はばたこう明日へ 小学どうとく3 はばたこう明日へ 小学どうとく4 はばたこう明日へ 小学道徳5 はばたこう明日へ 小学道徳6 はばたこう明日へ
取扱内容		○ 主として自分自身に関することのうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 様々な友達が描かれた絵と文章を教材として、友達のよいところ、自分のよいところを見付けて発表する活動（「わたしの よいところ」） 第2学年～ 「とおるさん」のよいところを伝える時間に、クラスメイトが次々に「とおるさん」のよいところを挙げたことに驚いた「ぼく」の物語を教材として、友達と「よいところ」を見付け合う活動（「とおるさんのゆめ」） 第3学年～ 「自分らしく」演技する体操の白井健三選手の新聞記事を読み、「自分らしさ」とは何かを考える主人公の物語を教材として、「自分らしさ」とは何か、自分にはどんな「自分らしさ」があるかを書き、話し合う活動（「ぼくらしさってなんだろう」） 第4学年～ 日本一のピッチャーになることを夢見てプロ野球選手となったが、結果が出ずに引退し、その後、球団のマスコットとなって活躍した島野修氏の物語を教材として、島野氏のよいところについて考え、話し合う活動（「ゆめは世界一のプロ野球マスコット（島野修）」） 第5学年～ 算数の勉強を投げ出しかけた主人公が、母親から、5年間欠かさず日記をつけ続けてきた根気強さがあなたの「たからもの」だと教えられた物語を教材として、自分の「よさ」を伸ばしていくために大切なことを考える活動（「たからもの」） 第6学年～ i P S細胞を開発した山中伸弥氏が「長期の目標を立てること」と「一生懸命に努力すること」の2つを大切にしてきた物語を教材として、自分の長所を伸ばすとはどのようなことかを考える活動（「山中伸弥先生の快挙（山中伸弥）」）			
学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等		○ 主として人との関わりに関することのうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ お気に入りの消しゴムを割ってしまい、怒らせてしまった友達との仲直りを教材として、仲直りをする場面を役割演技する活動（「なかなかおり」） 第2学年～ お互いに気持ちが行き違い、仲良くできない「みほちゃん」と「ますだくん」の心の声を描いた物語を教材として、仲良くなるにはどうしたらよいかを話し合う活動（「みほちゃんと、となりのせきのますだくん」） 第3学年～ 一緒に卓球をしたがった友達に対して「卓球は4人まで」と断った4人が、結局そのことが気になって楽しめなかった物語を教材として、友だちのことを大切にできない時の後ろめたさについて考える活動（「たつきゅうは四人まで」） 第4学年～ クラスメイト全員の牛乳パックの片づけをやらされている友達が、本当の気持ちを聞かれて、「ぼくは、ああでもしないと仲間に入れないから」と涙ぐんだ物語を教材として、自分だったらどう声をかけるかを考える活動（「仲間だから」） 第5学年～ 主人公が送った不用意なメールがきっかけで、根も葉もない噂が広まり、転校生が仲間外れにされかけた物語を教材として、自分が主人公や転校生だったらどのように話し合うかを役割演技する活動（「知らない間のできごと」） 第6学年～ 男子と女子の仲があまりよくないクラスで、遠足のしおり係の仕事で行き詰った「恵」が、絵が得意な「正彦」に絵地図を描くことを頼み、協力し合った物語を教材として、男子と女子が協力していくために大切なことについて考える活動（「絵地図の思い出」）			
		○ 主として集団や社会との関わりに関することのうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 入院している祖父と手紙をやり取りする女の子の物語を教材として、手紙を書いているときの気持ちや、その後退院した祖父と会ったときの気持ちを考える活動（「おじいちゃん だいすき」） 第2学年～ 看護師の仕事で忙しい母親と、その母親を見て自分も頑張ろうと思う男の子を描いた物語を教材として、家族のためにできることは何か、どうして頑張れるのかを考える活動（「ぼくもがんばるよ」）			

	第3学年～ いろいろなことをやりたがり、迷惑をかける3才の妹に苛立つ主人公が、あなたも小さい頃は同じだった、今度はあなたが教えてあげる番ではないかと諭される物語を教材として、自分ならば妹にどのような声を掛けるかを考える活動（「わたしの妹、かな」） 第4学年～ 夫婦でラーメン屋を営む両親をもつ主人公が、家族と一緒に食事できないことを寂しく思っていた気持ちが、店の手伝いをする中で変化していった物語を教材として、なぜ家族でラーメン屋をできることがよいことだと思えたのかを考える活動（「お父さんのラーメンがいちばん」） 第5学年～ 認知症の症状が現われはじめた祖父に戸惑う主人公と、その祖父のためにできることをみんなで話し合った家族の物語を教材として、自分にとって家族とはどのような存在かを考える活動（「わたしにできることを」） 第6学年～ 貧しい生活の中で、息子の進学のために必死に働いた母親と、母の思いを胸に懸命に勉強した野口英世の生涯を描いた物語を教材として、自分にとって家族とはどのような存在かを考える活動（「志を得ざれば、再びこの地を踏まず（野口英世）」） ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することのうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ どうしておへそがあるのかを考え、学ぶ教材をもとに、自分が母親のお腹の中にいたときや生まれたときの話を家の人に聞いてみる活動（「いのちのはじまり」） 第2学年～ 今まで生きてきたことを振り返ることを教材として、今までの成長を支えてくれた人、楽しかったこと、できるようになったことなどを書く活動（「せい長かいだん」） 第3学年～ 白血病と戦い、7才で亡くなった丹後光祐君と、彼が大切に育てていたアサガオを骨髄バンクの運動に役立てることにした母親の物語を教材として、このアサガオにはどのような意味や力があるのかを考え、話し合う活動（「光祐くんのアサガオ」） 第4学年～ 神経芽細胞腫と戦い、11才で亡くなった宮越由貴奈さんと、彼女の詩「命」を教材として、由貴奈さんが伝えたかったことは何か、彼女にとって「命」とは何だったのかを考え、話し合う活動（「命」） 第5学年～ 旭山動物園の園長、坂東元氏が獣医として勤めていた頃の経験から、大事なことは「ほこりをもって生き、命を全うすること」ではないかと考えるようになった物語を教材として、「生きる」とはどのようなことかを考え、話し合う活動（「オオカミから教えられたこと（坂東元）」） 第6学年～ 一緒に登山をした父と娘が、「生きている」というより「生かされている」と感じた物語と、石上智康の詩「生かされている」を教材として、生かされている大切な命であることが分かったと自分の生き方はどう変わっていくかを考える活動（「生かされている『大切な命』（石上智康）」）
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・ いじめの問題については、「いじめをなくす」と明記された教材が各学年に掲載されており、いじめをしない、させない、見過ごさないための判断力、心情、実践意欲と態度を系統的に育成できるよう工夫がなされている。 ・ 情報モラルへの対応については、「情報モラルについて理解する」と明記された教材により、安全情報機器の使用についての学習が系統的にできるようになっている。 ・ また、モラルスキルトレーニングを各所に取り入れて体験的な学習ができるよう工夫がなされている。 ・ 言語活動については、各学年に、自分や友達の考えを記入する欄や道徳的価値に対する問い、今後の行動を示唆する「学びの手引き」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるように工夫がなされている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、学習のねらいを明確にする「導入」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、役割演技を通して道徳的価値の理解を深める「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは10教材、Bは7教材、Cは12教材、Dは7教材、Eは4教材、全

	体で 40 教材であり、総ページ数は 130 ページで、前回より約 10 %増となっている。(判型はA B判) 第 2 学年～ Aは 10 教材、Bは 8 教材、Cは 11 教材、Dは 8 教材、Eは 4 教材、全体で 41 教材であり、総ページ数は 138 ページで、前回より約 6 %増となっている。(判型はA B判) 第 3 学年～ Aは 11 教材、Bは 10 教材、Cは 13 教材、Dは 4 教材、Eは 4 教材、全体で 42 教材であり、総ページ数は 148 ページで、前回より約 9 %増となっている。(判型はA B判) 第 4 学年～ Aは 9 教材、Bは 10 教材、Cは 13 教材、Dは 6 教材、Eは 4 教材、全体で 42 教材であり、総ページ数は 160 ページで、前回より約 11 %増となっている。(判型はA B判) 第 5 学年～ Aは 9 教材、Bは 6 教材、Cは 14 教材、Dは 8 教材、Eは 4 教材、全体で 41 教材であり、総ページ数は 164 ページで、前回より約 8 %増となっている。(判型はA B判) 第 6 学年～ Aは 12 教材、Bは 6 教材、Cは 12 教材、Dは 8 教材、Eは 4 教材、全体で 42 教材であり、総ページ数は 168 ページで、前回より約 11 %増となっている。(判型はA B判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年に、一年間の道徳の学習で心に残った授業とその理由を記入する「一年間の道徳の学習をふり返ろう」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年に、学校と家庭との連携を促すことを目的とした「家の人から一言」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市について本文 1 点、それ以外の北海道について本文 3 点、写真や地図等の掲載が 13 点あり、下記の内容が詳しく掲載されている。 ・第 4 学年の「タイガとココア」では、釧路市動物園で誕生した赤ちゃんトラが困難を乗り越えたくましく成長する姿と、それを支える人たちの姿が描かれている。自然愛護や生命の大切さなどについて、多面的・多角的に考えさせることが期待できる教材である。 ・第 5 学年の「オオカミから教えられたこと」では、旭山動物園の坂東園長が病気の年老いたオオカミに、治療のため吹き矢を使い麻酔を打って薬を与えたが、ショック死してしまう。「生きること」について深く考えることが期待できる教材である。 ○ ICT の活用については、教材での学びをさらに深め、充実させる「まなびリンク」があり、ICT を有効に活用することで、児童が主体的に調べたり、考えたりする学習ができるよう工夫がなされている。 ○ 小・中連携による指導については、第 6 学年に「卒業に向けて」の教材を配置し、どのような中学生になりたいかについて考えさせることを通して、中学校生活へ思いを膨らませることができるよう配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、キャラクターによる導入や 3 段階の学習の流れ「考えよう」「深めよう」「つなげよう」の提示により多様な考えを引き出せるよう構成されている。また、コラムや写真、資料などを多数掲載し、児童が道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるよう工夫がなされている。 ○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、各教材に「考えよう」「深めよう」「つなげよう」が設けられ、児童が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう工夫されている。また、各学年に「やってみよう」を配置し、児童が役割演技により心の変容を実感することができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が 1 冊で構成されている。

観 点 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	38・光村	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 105 道徳 205 道徳 305 道徳 405 道徳 505 道徳 605	どうとく1 きみが いちばん ひかるとき どうとく2 きみが いちばん ひかるとき どうとく3 きみが いちばん ひかるとき どうとく4 きみが いちばん ひかるとき 道徳5 きみが いちばん ひかるとき 道徳6 きみが いちばん ひかるとき
取 扱 内 容	○ 主として自分自身に関することのうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 家族それぞれの「じょうず」なところを挙げた上で、そんな自分のことを「ほめじょうず」であると締めくくっている児童詩を教材として、自分や友達の「じょうず」なところを見付けたり、見つめ直したりする活動（「みんな じょうず」） 第2学年～ 独創的な折り紙を折り続けた吉澤章さんの伝記を教材として、自分の得意なことやよいところを伸ばしていくことについて考える活動（「おり紙の名人一よしざわ あきら」） 第3学年～ 「二学期のがんばりじまん」のスピーチを考える中でクラスの仲間がそれぞれの長所を見付け合うという物語を教材として、自分の長所を見付け、伸ばすためにどんな気持ちが必要であるか考える活動（「三年元気組」） 第4学年～ 「世界に一つだけの花」の歌詞を教材として、友達のよいところを教え合う活動（「世界に一つだけの花」） 第5学年～ 「友達のよいところ」や自分の「好きなところ」や「変えたいと思っていること」をカードに書き、友達や自分の長所を見付け合う活動（『自分らしさ』を見つめよう） 第6学年～ 自分に自信がもてない主人公が、友達のアドバイスを受けて自分のよいところに気付き、長所を伸ばそうとする物語を教材として、自分の長所を知ることがなぜ大切なのかを考える活動（「ぬくもり」） ○ 主として人との関わりに関することのうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ やまがらの誕生日に行くか、うぐいすの家での音楽会練習に行くか迷うみそさざいの姿を描いた物語を教材として、やまがらのもとに駆け付けるみそさざいの思いを考える活動（「二わの ことり」） 第2学年～ けんかした友達に「ごめんね」と言えないまま、仲直りができてしまったという児童詩を教材として、友達と仲よくすることについて考える活動（「よかったよ」） 第3学年～ クラスの仲間が協力し合った遠足の様子を描いた物語を教材として、友達と助け合うとどんな気持ちになるかについて考える活動（「目の前は青空」） 第4学年～ 友達の赤鬼に尽くした青鬼と、青鬼の思いに気付いた赤鬼の友情を描いた物語を教材として、友達とよりよい関係を築くために大切なことについて考える活動（「泣いた赤おに」） 第5学年～ 長期入院している幼なじみが描いた自分の肖像画を通して、友達についての思いを深める主人公の姿を描いた物語を教材として、友情の尊さ、友達と支え合うことの大切さについて考える活動（「友のしょうぞう画」） 第6学年～ 「罪を犯したかもしれない友人にどのように対応するか」について迷う主人公たちの姿を描いた物語を教材として、友達を信じるとはどういうことなのかを考える活動（「ロレンゾの友達」） ○ 主として集団や社会との関わりに関することのうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 両親の外出中、自分にできる仕事を探し、懸命に取り組む主人公の姿を描いた物語を教材として、家族のために何ができるかについて考える活動（「これなら できる」） 第2学年～ 急な仕事で親子サッカー大会に参加しなかった父親に不満を抱きながらも、一緒に練習してくれたりした父親の姿を思い起こす主人公の姿を描いた物語を教材として、家族の大切さについて考える活動（「ぼくのサッカー			

	シューズ)』 第3学年～ 曾祖母との関わりについて書かれた児童の作品を教材として、家族全員が楽しく過ごすために大切なことが何かについて考える活動(「百六さい、おめでとう、ひいばあちゃん」) 第4学年～ 自分がした手伝いに対する請求書を母に手渡した主人公と、主人公にお金を請求しなかった母の対比を描いた物語を教材として、家族の中の自分のこれまでの行動について振り返る活動(「ブラッドレーのせい求書」) 第5学年～ 祖母に優しい態度を取れないで居る主人公を描いた物語を教材として、主人公の家族にとって祖母はどのような存在なのかを考える活動(「祖母のりんご」) 第6学年～ 聴覚障害と言語障害をもつ両親に名前を呼んでももらえない辛さを級友とのけんかで気づき、その辛さを両親にぶつけていく主人公に対して手話で心の思いを伝える物語を教材として、児童が自分の家族について考える活動(「ぼくの名前呼んで」) ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関するもののうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気付く主人公の姿を描いた物語を教材として、命の大切さについて考える活動(「ちいさなふとん」) 第2学年～ 病気の象が倒れないように、仲間の2頭の象が病気の象の両側に寄り添って支えたという実話を教材として、命を支え合うことについて考える活動(「がんばれアヌーラ」) 第3学年～ 菜園で野菜を育てる主人公の姿を描いた物語を教材として、「生きている仲間」のつながりについて考える活動(「生きている仲間」) 第4学年～ 生き物と機械の違いについて書かれた文章を教材として、命はどうして大切なのかを考える活動(「生き物と機械」) 第5学年～ 神経芽細胞腫という病のため亡くなった児童が、小学校4年生の時に書いた命についての詩を教材として、生命の尊さについて考える活動(「命の詩—電池が切れるまで」) 第6学年～ 祖父の死をきっかけに、生きることの意義について見つめ直す主人公の姿を書いた物語を教材として、生き方に関わる生命の尊厳について考える活動(「おじいちゃんとの約束」)
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・ いじめの問題については、様々な内容項目からいじめの問題に結びつく教材とコラムを合わせて「ユニット」として設定し、自分が気付かないうちに友達に嫌な思いをさせていることがないかを振り返ったり、相手の権利を大切に考えたりすることができるよう工夫がなされている。 ・ 情報モラルへの対応については、各学年を通して、道徳科の特性を踏まえた上で情報モラルの内容を扱ったコラムと教材を組み合わせ、情報モラルに関して考えることができるよう工夫がなされている。 ・ 言語活動については、各学年に、経験や考えを引き出す「キャラクターによる問いかけ」や多面的・多角的に考えられる発問「考えよう・話し合おう」、学習したことを他教科や日常生活につなげる「つなげよう」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるように工夫がなされている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、問題解決的な考えを促す発問「考えよう・話し合おう」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、役割演技を通して道徳的価値の理解を深める「演じて考えよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは11教材、Bは10教材、Cは15教材、Dは5教材、Eは5教材、

	全体で 46 教材であり、総ページ数は 144 ページで、前回より約 13 %増となっている。(判型は B 5 変形判) 第 2 学年～ A は 12 教材、B は 9 教材、C は 15 教材、D は 6 教材、E は 6 教材、全体で 48 教材であり、総ページ数は 168 ページで、前回より約 11 %増となっている。(判型は B 5 変形判) 第 3 学年～ A は 11 教材、B は 12 教材、C は 15 教材、D は 6 教材、E は 6 教材、全体で 50 教材であり、総ページ数は 184 ページで、前回より約 5 %増となっている。(判型は B 5 変形判) 第 4 学年～ A は 10 教材、B は 13 教材、C は 14 教材、D は 6 教材、E は 7 教材、全体で 50 教材であり、総ページ数は 192 ページで、前回より約 4 %増となっている。(判型は B 5 変形判) 第 5 学年～ A は 10 教材、B は 11 教材、C は 14 教材、D は 8 教材、E は 8 教材、全体で 51 教材であり、総ページ数は 204 ページで、前回より約 4 %増となっている。(判型は B 5 変形判) 第 6 学年～ A は 10 教材、B は 11 教材、C は 14 教材、D は 8 教材、E は 8 教材、全体で 51 教材であり、総ページ数は 220 ページで、前回より約 6 %増となっている。(判型は B 5 変形判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年に、「学習のまとめ」の区切りに道徳で学んだことを記録する「学びの記録」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年に、長期休業中の自主的な学びや家庭での話し合いにつなげる「夏休みの前に」、「冬休みの前に」等を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市については掲載されていない。それ以外の北海道について本文 1 点、写真 8 点についてあり、下記の内容が詳しく掲載されている。 ・第 6 学年の「命の旅」では、知床の動物たちの生活を消化することを通して、生命の強さやたくましさについて考えさせている教材である。教材により雄大な自然に触れることで、児童の興味・関心を高められることが期待できる教材である。 ○ ICT の活用については、声優による朗読や、オリジナル写真や動画、デジタルコンテンツの紹介など、児童の主体的な思考や議論の活性化を図ることができるよう工夫がなされている。 ○ 小・中連携による指導については、第 6 学年「1 さいから 100 さいのゆめ」「あなたへのメッセージ」により、児童が中学校やその先の生き方まで見通すことができるよう配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、生活場面に密着した内容や、児童が興味・関心を抱きやすい話題を中心に構成されている。また、一つの事柄について異なる二つの視点から考えさせ、物事を様々な方向から見ることができるよう工夫がなされている。 ○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、巻末には「学びの記録」が設けられており、自分の成長を実感しこれからの課題や目標を見付ける力を育むことができるよう工夫がなされている。また、価値理解を深めるためのコラムや漫画形式の教材「なんだろうなんだろう」を全学年に掲載し、児童が道徳的価値を自分事として捉えることができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が学年 1 冊で構成されている。

観 点 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	116・日文	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 106, 道徳 107 道徳 206, 道徳 207 道徳 306, 道徳 307 道徳 406, 道徳 407 道徳 506, 道徳 507 道徳 606, 道徳 607	はがきどうくいきる ちから 1, どうくノート 小学どうく 生きる 力 2, どうくノート 小学どうく 生きる力 3, どうくノート 小学どうく 生きる力 4, どうくノート 小学道徳 生きる力 5, 道徳ノート 小学道徳 生きる力 6, 道徳ノート
取 扱 内 容 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等	○ 主として自分自身に関することのうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 子ペンギンが母親ペンギンに自分のよいところを教えてもらう物語を教材として、自分のよいところを見付ける活動（「ぼくは 小さくて 白い」） 第2学年～ 自分に自信をもてずにいた主人公が、下級生のお世話をしたことを教師から認められて嬉しくなる物語を教材として、自分や友達のよいところを伝え合う活動（「いい ところ みいつけた」） 第3学年～ クラスで「いいところみつけ」をした時に、おとなしくて一度も紹介されなかった友達のよさを「わたし」が見付けて発表した物語を教材として、お互いの「いいところ」を見付ける活動（「お母さんの『ふふふ』」） 第4学年～ 主人公が長距離走練習を継続することで自分の長所を見いだす物語を教材として、母親から「長所が見つからないなら、つくればいいでしょ。」とアドバイスされた主人公の思いを考える活動（「つくればいいでしょ」） 第5学年～ 日本や世界中の人々に親しまれるマンガ家となった手塚治虫の実話を教材として、葛藤がありながらもマンガ家を続けてきた手塚治虫の思いを考える活動（「マンガ家 手塚治虫」） 第6学年～ 落語の道に入って自分の長所と出会えた春風亭昇太の実話を教材として、春風亭昇太が言う「それじゃ、ダメじゃん」という言葉に込められた思いを考える活動（「それじゃ、ダメじゃん」）			
	○ 主として人との関わりに関することのうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ やまがらの誕生日に行くか、うぐいすの家での音楽会練習に行くか迷うみそさざいの姿を描いた物語を教材として、やまがらのもとに駆け付けるみそさざいの思いを考える活動（「二わの ことり」） 第2学年～ 池の中島で遊ぼうとした動物たちが、泳げないりすから「いっしょにつれていって」と言われて知恵を絞る物語を教材として、断った時とみんなで遊べた時の思いを比較して考える活動（「およげないりすさん」） 第3学年～ 一緒に卓球をしたがった友達に対して「卓球は4人まで」と断った4人が、結局そのことが気になって楽しめなかった物語を教材として、友だちのことを大切にできない時の後ろめたさについて考える活動（「たつきゅうは四人まで」） 第4学年～ 仲のよい友人から届いた定形外の絵はがきの料金が不足していたことを伝えるかどうか思い悩む物語を教材として、主人公が迷う気持ちや行動について交流する活動（「絵はがきと切手」） 第5学年～ 主人公が送った不用意なメールがきっかけで、根も葉もない噂が広まり、転校生が仲間外れにされかけた物語を教材として、加害者となった少女がどのような思いをもったのかを考える活動（「知らない間のできごと」） 第6学年～ 「罪を犯したかもしれない友人にどのように対応するか」について迷う主人公たちの姿を描いた物語を教材として、友達を信じるとはどういうことなのかを考える活動（「ロレンゾの友達」） ○ 主として集団や社会との関わりに関することのうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 母親に帽子を編んでもらった少年が王様から「金のかんむりと取りかえよう」と言われても応じなかった物語を教材として、王様の申出を断る少年の思いを考える活動（「おかあさんの つくった ぼうし」） 第2学年～ 祖母から届いた誕生日プレゼントのお礼としてプレゼントを身に付けた写真をメールで送る物語を教材として、返事を心待ちにする主人公の思いを考える活動（「おばあちゃん お元気ですか」） 第3学年～ 自分がした手伝いに対する請求書を母に手渡した主人公と、主人公にお			

	金を請求しなかった母の対比を描いた物語を教材として、家族の中の自分のこれまでの行動について振り返る活動（「お母さんのせいきゅう書」） 第4学年～ 母親の出産に伴い1人で祖父母の家に滞在する主人公が、特別扱いをされないことに不満を漏らす物語を教材として、「家族の一員だから」と言われて変化する主人公の思いを考える活動（「家族の一員として」） 第5学年～ 分担された家事を負担に思う主人公が、家族みんなの幸せを考えて家事をする両親の思いに気付く物語を教材として、実際に担っている家事や今後できそうなことを考える活動（「家族のために」） 第6学年～ 最後の運動会で初めてアンカーに選ばれたが、父親が仕事で見に来られなくなり、主人公が落胆・葛藤する物語を教材として、家族への思いが強くなる場面を交流する活動（「初めてのアンカー」） ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することのうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 生まれてから10日間、ハムスターの赤ちゃんがお母さんハムスターに大切に育てられながら大きくなっていく様子を描いた物語を教材として、生まれたてと10日目の様子を比較しながら感じたことを交流する活動（「ハムスターの赤ちゃん」） 第2学年～ 道路に飛び出して自動車事故に遭い病院に運ばれた主人公が、かけつけてくれた人たちの思いを感じ取る物語を教材として、周囲が心配をした思いについて交流する活動（「やくそく」） 第3学年～ 阪神淡路大震災で逃げる途中に倒れた家の下敷きになった子どもを助ける一家の物語を教材として、一家のとった行動を自分に置き換えて考える活動（「助かった命」） 第4学年～ 日野原重明先生が語ってきた命のお話を教材として、自分の命の大切さだけでなく命を人のためにつかっていく尊さについて考える活動（「あなたの時間にいのちをふきこめば」） 第5学年～ 神経芽細胞種と診断され11歳の生命を生き切った少女が生前に書いた詩を教材とし、「せいいっぱい生きる」とはどういうことかを考える活動（「命」） 第6学年～ 余命3カ月の祖父のお見舞いを毎日続け、看取った後に祖父の枕元から誕生日プレゼントを見つけた少年の話を教材として、プレゼントを見つけた少年の思いを考える活動（「その思いを受けついで」）
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・ いじめの問題については、直接的に扱った教材だけでなく、自己有用感や他者理解などいじめの克服に繋がるユニットを設定し、いじめを「しない」、「させない」、「見過ごさない」力を付けることができるよう工夫がなされている。 ・ 情報モラルへの対応については、学年の発達段階に応じて教材をバランスよく配置し、児童が主体的に考えることができるよう工夫がなされている。 ・ 言語活動については、各学年の別冊に、自分や友達の考えを記入する欄やペアトーク、グループトークの学習形態を示唆する「話し合ってみよう」等を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるように工夫がなされている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、問題をつかむ活動や考える活動を促す発問などを示した「学習の手引き」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、役割演技や動作化の写真を提示した「学習の手引き」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは5教材、Eは6教材、全体で43教材であり、総ページ数は別冊を含め188ページで、前回より約3%増となっている。（判型はAB判）

	第2学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは6教材、Eは7教材、全体で45教材であり、総ページ数は別冊を含め204ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA B判) 第3学年～ Aは11教材、Bは9教材、Cは12教材、Dは6教材、Eは7教材、全体で45教材であり、総ページ数は別冊を含め216ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA B判) 第4学年～ Aは9教材、Bは10教材、Cは13教材、Dは6教材、Eは7教材、全体で45教材であり、総ページ数は別冊を含め224ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA B判) 第5学年～ Aは8教材、Bは9教材、Cは14教材、Dは7教材、Eは7教材、全体で45教材であり、総ページ数は別冊を含め224ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA B判) 第6学年～ Aは9教材、Bは8教材、Cは13教材、Dは8教材、Eは7教材、全体で45教材であり、総ページ数は別冊を含め224ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA B判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年の別冊に、自分の意見や友達の意見、話合いの内容などを記入する自由記述欄を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年の別冊に、家庭や地域社会との連携による指導への配慮として「保護者記入欄」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市について本文1点、それ以外の北海道について写真の掲載が4点、地図が3点、本文が5点ある。 ・第3学年の「木の中にバットが見える」では、北海道産の木を材料として、野球選手の使うバットをつくる久保田さんという職人の資料である。職人としてのうでをささえていた思いに対する児童の興味・関心を高められることが期待できる教材である。 ・第5学年の「美しい夢ーゆめぴりかー」では、旭川市で長年かけて開発されたお米「ゆめぴりか」に携わった方々に対する思いに触れることから、児童の郷土に対する興味・関心を高められることが期待できる教材である。 ○ ICTの活用については、アイコンが配置された教材については、授業の導入や展開で活用できる動画資料や、関連画像などをホームページ上にデジタル教材として準備されており、児童が興味・関心を高めて授業に取り組むことができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、5年、6年の教材選定や表現方法、レイアウトなど中学校の学習へ繋がるよう工夫がなされている。また、別冊道徳ノートにおいても、道徳の学習で学んだことを記入し、成長を確かめることができるよう配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、コラム「心のベンチ」が適宜配置され、広く深く、考えられるよう構成されている。また、「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」では、3つの発問例が示され、道徳的価値について多面的・多角的な見方、考え方ができるよう工夫がなされている。 ○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、「問題解決的な学習」や「体験的な学習」等の手法が示され、自分事として考えられるよう工夫がなされている。また、多様な指導方法に適した教材の後ろには「学習の手引き」が位置付けられ、自分自身のこととして価値理解を深めることができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が本冊と分冊の2分冊で構成されている。

観 点		発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		208・光文	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 108 道徳 208 道徳 308 道徳 408 道徳 508 道徳 608	しょうがく どうとく ゆたかな ころ 1ねん 小学 どうとく ゆたかな ころ 2年 小学どうとく ゆたかな 心 3年 小学どうとく ゆたかな 心 4年 小学道徳 ゆたかな心 5年 小学道徳 ゆたかな心 6年
取扱内容		○ 主として自分自身に関することのうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 自分には「よいところ」がないと悩む主人公が、家族から「よいところ」を教えられて励まされる物語を教材として、自分や友達の「よいところ」を見付けて教え合ったり、家族に自分の「よいところ」を聞いてみる活動（「ぼくにもあるかな」） 第2学年～ 大好きな魚を調べる活動を続けていた主人公が、担任の勧めでそれらを新聞にまとめ友達から称賛された喜びを描いた自伝を教材として、自分のよさや、興味・関心を高めていくことの素晴らしさについて考える活動（「ミーボーしんぶん」） 第3学年～ 幼少から失敗しても自分の特徴や得意なところを伸ばし続け、世界一の体操選手になった内村航平選手の物語を教材として、自分の特徴を見つけ、これから磨いていきたいところを考える活動（「世界一うつくしい体そうをめざして ー内村航平ー」） 第4学年～ 展覧会で出会った画家から、重ねてきた努力や苦労を聞き、驚くと同時に、画家になるという夢を再確認した主人公の物語を教材として、自分の「自分らしさ」は何か、それを伸ばすためにはどうしたらよいかをまとめる活動（「わたしのゆめ」） 第5学年～ 病気や不振に苦しみながら、様々な人のアドバイスを聞きながら自分を伸ばし続け、日本を代表するプロ野球選手になった内川聖一選手の物語を教材として、自分を伸ばすために必要なことを考える活動（「変えたもの・変えなかったもの ー内川聖一ー」） 第6学年～ シュートが上手だがチームメイトとしっくりいかないサッカー選手の主人公が、入院を機に自分の長所と短所を見つめ直す物語を教材として、自分の長所と短所を見つめる活動（「勇太への宿題」） ○ 主として人との関わりに関することのうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ やまがらの誕生日に行くか、うぐいすの家での音楽会練習に行くか迷うみそさざいの姿を描いた物語を教材として、やまがらのもとに駆け付けるみそさざいの思いを考える活動（「二わのことり」） 第2学年～ 泳ぐことのできないりすを仲間はずれにしたものの楽しく遊べず、りすも含めみんなで遊ぶことで友達の大切さを改めて感じる動物たちの物語を教材として、友達と仲良くするために大切なこととはについて考える活動（「およげないりすさん」） 第3学年～ スキーの授業で骨折し入院した友達を見舞った3人が、ベッドから動けない友達のために、窓から見えるところに「雪灯籠」をつくった物語を教材として友達にどのように接したらよいかを考える活動（「赤い灯 ゆれろ」） 第4学年～ 北京オリンピックのソフトボール女子で試合を戦う選手たちと、怪我で代表から外れ、観客席から応援する選手とが、心を通いあわせて戦い、優勝した物語を教材として、友達との「協力」の仕方について考える活動（「十六番目の代表選手」） 第5学年～ 画家ミレーと、ミレーに内緒で彼の絵を買い、暮らしを助けた友人ルソーの物語を教材として、友達だからできること、友達だからやらないことなどについて考える活動（「ミレーとルソー」） 第6学年～ 野球が大好きな主人公の女の子が、思い切って男子チームに入り、励まされながら練習する物語を教材として、男女関係なく信頼しあい、助けあっていくために大切なことを考え、話し合う活動（「陽子、ドンマイ！」） ○ 主として集団や社会との関わりに関することのうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 「いちばんいいおかあさん」を探そうとしたものの、どの母親も「みんないいおかあさん」であり、「いちばんいいおかあさん」を決めることができなかった物語を教材として、「いいおかあさん」に共通する点は何か			

	を考える活動（「ぎんのしずく」） 第2学年～ 自分の祖父母がどんな人かを紹介し、どんなことを一緒にしたいかを発表する活動を教材として、祖父母が喜んでくれること、祖父母のためにできることをやってみる活動（「わたしのおじいさん、おばあさん」） 第3学年～ 少年の頃、火傷で農作業を手伝えなくなった野口英世が、勉強がいちばんの「おてつだい」になるのだという母の言葉を胸に、懸命に勉強に励んだ物語を教材として、家族のためにできる「おてつだい」を考える活動（「清作のおてつだい」） 第4学年～ 主人公が生まれた時の様子や両親の思い等を、タイムマシンを使って確かめる漫画を教材として、自分が生まれたときの様子を家の人にインタビューしてまとめる活動（「ぼくの生まれた日 ードラえもん」） 第5学年～ 新しくやってきたイギリス人の先生が、自分の家族を詳しく紹介してくれた物語を教材として、家族に様々な質問をする「ビンゴゲーム」の活動（「家族の紹介」） 第6学年～ 仕事場での父親の姿を見て、父親が家族のために頑張ってくれていることなどを知った女の子の物語を教材として、家の人がどんな思いで仕事をしているか、家族を支えるために自分にできることは何かを考える活動（「かっこいいお父さん」） ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することのうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 動物園で、障がいを負ったサルを見て、最初は「かわいそう」と思った主人公が、その一生懸命に生きる姿に、「ありがとう！」と呼びかけた物語を教材として、サルの生きる姿から学んだことを考える活動（「さるのおかあさん・サヤカ」） 第2学年～ 主人公が赤ん坊の頃、高熱を出し、病院に連れて行こうとして慌てたあまり、かえって自分が怪我をしたという母親の思い出話を教材として、自分や友達の「生きる力」を感じる場面について発表し合う活動（「一まいのしやしん」） 第3学年～ 沖縄の平和祈念公園で、祖母から沖縄戦のことを聞き、「命どうたから」という言葉の意味を教わった主人公の物語を教材として、同じような意味の言葉を探し、意味や由来を考える活動（「命どうたから」） 第4学年～ ラジオ、テレビで緊急の献血を呼びかけたところ、500人以上の人が駆け付け、患者の生命が救われた、福井・愛育病院の物語を教材として、自分たちがこれから命を大切にするためにできることを考える活動（「五百人からもらった命」） 第5学年～ 自分の小さい頃の写真を見て、当時と今との「心の大きさ」を比べ、それが「生きているしょうこ」なのだと語る詩を教材として、自分の小さい頃の写真と今の写真とをノートに貼り、比べて気付いたことを書く活動（「一枚の写真から」） 第6学年～ 交通事故で息子を失った鈴木共子氏の「生命のメッセージ展」と、小学生へのメッセージを教材として、「命を輝かせる」とはどういうことか、クラスで話し合う活動（「生命のメッセージ」）
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・ いじめの問題については、コラム「みんな仲良し楽しい学校」を設け、よりよい人間関係やいじめのない学級生活を実現するにはどうすればよいかを、児童が身をもって考えることができるよう工夫がなされている。 ・ 情報モラルへの対応については、各学年を通して、「情報モラル」のコラムが配置され、安全かつ健康・健全な情報機器の使用のための知識を系統的に学習できるよう工夫がなされている。 ・ 言語活動については、各学年に、話し合い活動についての方法を示したオリエンテーションページや教材に関連したコラム「ことばのたからもの」を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるように工夫がなされている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、様々な考えや意見を基に問題の解決に向けて取り組むことができる「キャラクターの投げかけ」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、よりよい人間関係の構築に向けた「みんなでやってみよう！」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。

	※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは14教材、Bは11教材、Cは16教材、Dは10教材、Eは2教材、全体で53教材であり、総ページ数は152ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA4変形判) 第2学年～ Aは14教材、Bは10教材、Cは17教材、Dは7教材、Eは2教材、全体で50教材であり、総ページ数は160ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA4変形判) 第3学年～ Aは8教材、Bは15教材、Cは19教材、Dは8教材、Eは2教材、全体で52教材であり、総ページ数は176ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA4変形判) 第4学年～ Aは10教材、Bは14教材、Cは18教材、Dは8教材、Eは2教材、全体で52教材であり、総ページ数は180ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA4変形判) 第5学年～ Aは12教材、Bは11教材、Cは17教材、Dは11教材、Eは2教材、全体で53教材であり、総ページ数は184ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA4変形判) 第6学年～ Aは14教材、Bは9教材、Cは16教材、Dは12教材、Eは2教材、全体で53教材であり、総ページ数は188ページで、前回と同様のページ数となっている。(判型はA4変形判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年に、授業後の心の動きや学びを継続し道徳性をより深め育む「学びの足あと」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年に、家庭や地域の人たちとの関わりをもたせた活動を提示した「ひろげる」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市については掲載されていない。それ以外の北海道について本文2点、写真や地図等の掲載が2点あり、下記の内容が詳しく掲載されている。 ・第5学年の「自然を守るエゾリス」では、北海道の厳しい冬の生活の中でたくましく生きるエリスの生態について紹介しながら、自然界のしくみや生態系について述べている。エゾリスという児童が興味・関心をもちやすい対象を通して、自然環境の大切さや北海道の自然の素晴らしさについて考えさせることのできる教材である。 ・第6学年の「自然のゆりかご」では、北海道の原生林を見学した主人公が、自然の仕組みや偉大さに気付く様子が描かれている。北海道の原生林から、自然やいのちに対する思いを深めることのできる教材である。 ○ ICTの活用については、記載していない。 ○ 小・中連携による指導については、第6学年の「わたしは ひろがる」において自分の可能性や進路、将来の夢について考えさせることにより、中学校生活や未来への思いを膨らませることができるように配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、教材文に加え、写真をメインにした教材や1枚絵、地図等が掲載されているなど、多彩な掲示形式によって構成されている。また、発問を巻末だけでなくページ下部にも配置し、児童がより様々な視点や考えをもつことができるよう工夫がなされている。 ○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、重点主題教材を設けている。また、児童が考えやすいよう、イラストや新聞記事、図による説明を多く取り入れ、分かりやすく提示することができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が学年1冊で構成されている。

観 点 番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
	224・学研	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳 109 道徳 209 道徳 309 道徳 409 道徳 509 道徳 609	新・みんなのどうとく 1 新・みんなのどうとく 2 新・みんなのどうとく 3 新・みんなの道徳 4 新・みんなの道徳 5 新・みんなの道徳 6
取 扱 内 容 学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等	○ 主として自分自身に関するもののうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ アンパンマンを生んだやなせたかしさんのあきらめずに好きな絵を書き続けた思いを教材として、自分のよさや好きなことについて考える活動（「大すきだから」） 第2学年～ 長谷川町子さんが大好きな絵を描き続け、「サザエさん」が誕生したお話を教材として、自分の好きなことや好きなことを続ける大切さについて考える活動（「絵がすき 海がすき」） 第3学年～ 「ゲゲゲの鬼太郎」の作者である水木しげるさんの生涯を紹介した文章を教材として、水木さんの気持ちや生き方について交流する活動（「鬼太郎をかいたゲゲさん」） 第4学年～ 友達のよさを認め合うクラスの様子が描かれた物語を教材として、登場人物の気持ちや、物語を通して考えたことを交流する活動（「ばんざい大きな花まる」） 第5学年～ 漫画家である手塚治虫さんの幼少時代の様子や思いが描かれた作品を教材として、才能を認められた人物の気持ちや自分の長所について考える活動（「日本の『まんがの神様』」） 第6学年～ 谷川俊太郎さんの「自分をはぐくむ」など、「自分らしさ」をテーマにした3つの詩を教材として、どの詩が好きかについてその理由とともに考えたり、自分のよさや自分らしさについて話し合ったりする活動（「自分らしく」）			
	○ 主として人との関わりに関するもののうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ やまがらの誕生日に行くか、うぐいすの家での音楽会練習に行くか迷うみそさざいの姿を描いた物語を教材として、やまがらのもとに駆け付けるみそさざいの思いを考える活動（「二わの小鳥」） 第2学年～ 竹馬と一輪車で遊んでいた友達がけんかになってしまう様子、仲直りしていく姿が描かれた物語を教材として、仲直りするきっかけにつながった行動について考える活動（「竹馬と一りん車」） 第3学年～ 仲のよい友人から届いた定形外の絵はがきの料金が不足していたことを伝えるかどうか思い悩む物語を教材として、主人公が迷う気持ちや行動について交流する活動（「絵葉書と切手」） 第4学年～ チームの仲間と共に戦い抜くことができた喜びを試合の結果以上に大切に思うなでしこジャパンの姿を描いた作品を教材とし、本当の仲間とはどんなものなのかについて交流する活動（「なみだとえがおの『なでしこジャパン』」） 第5学年～ 男女の仲を冷やかされ、それに拒絶する主人公、それとは対照的に自分の気持ちに素直に行動する友達の姿が描かれた物語を教材として、男女の友達関係がこじれる原因や、仲よくしていくために大切なことが何かを考え交流する活動（「言葉のおくりもの」） 第6学年～ 「罪を犯したかもしれない友人にどのように対応するか」について迷う主人公たちの姿を描いた物語を教材として、友達を信じるとはどういうことなのかを考える活動（「ロレンゾの友達」）			
	○ 主として集団や社会との関わりに関するもののうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ サバンナで暮らす家族の子どもの暮らしを紹介し、お手伝いや家族との過ごし方を取り上げた実話を教材として、家族の一員として働く姿について交流する活動（「サバンナの子ども」） 第2学年～ 母親に約束を守ってもらえなかった主人公が不満を抱えながらも、母親の思いや行動を受け入れようとする姿が描かれた物語を教材として、家族に対する主人公や自分の気持ちを交流する活動（「おふろプール」）			

	第3学年～ おつかいの最中にお金を無くしてしまった主人公の家族を思う気持ちやそれを理解する母親の姿が描かれた物語を教材として、主人公と母親の双方の気持ちについて交流する活動（「一まいの銀貨」） 第4学年～ 自分がした手伝いに対する請求書を母に手渡した主人公と、主人公にお金を請求しなかった母の対比を描いた物語を教材として、家族の中の自分のこれまでの行動について振り返る活動（「お母さんのせい求書」） 第5学年～ 入院生活から帰ってきた母親を支えようとする主人公とその家族の姿が描かれた実話を教材として、主人公の思いや家族の大切さについて話し合う活動（「ぼくがいるよ」） 第6学年～ 最後の運動会で初めてアンカーに選ばれたが、父親が仕事で見に来れなくなり、主人公が落胆・葛藤する物語を教材として、主人公の気落ちについて考え、主人公の思いや家族に対する思いが強くなる場面について交流する活動「（はじめてのアンカー）」 ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することのうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 生まれてから10日間、ハムスターの赤ちゃんがお母さんハムスターに大切に育てられながら大きくなっていく様子を描いた物語を教材として、生まれたてと10日目の様子を比較しながら感じたことを交流する活動（「ハムスターの赤ちゃん」） 第2学年～ いとこが生まれたことをきっかけに、自分が生まれたときのことを聞かされる主人公の姿が描かれた物語を教材として、主人公の気持ちや「生きていてよかった」という自分自身の経験を交流する活動（「だっこしながら」） 第3学年～ 小児がんと闘いながらも亡くなってしまった女の子と支え続けた家族の思いを描いた物語を教材として、登場人物の気持ちや家族に対する自分の思いについて交流する活動（「六さいのおよめさん」） 第4学年～ 「一日一日をせいいっぱい生きること」と、人生について話す祖父の思いが描かれた物語を教材として、登場人物の生き方や思い、自分自身の命に対する考えについて交流する活動（「わたしのいのち」） 第5学年～ 東日本大震災によって起こった列車事故の様子やその中で命を救おうと懸命に行動する人物の姿を描いた物語を教材として、命を守ろうとする人物の姿や命の重さについて自分の考えを交流する活動（「二十分間の出来事」） 第6学年～ 13歳で天国へ旅立った猿渡瞳さんの生き方を教材として、今を生きる大切さについて考える活動（「命を見つめて」）
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 ・ いじめの問題については、「いのちの教育」を最重要テーマに掲げ、いじめ防止につながる教材を複数掲載し、いじめを生まない力を引き出したり、他者とよりよく生きることについて議論することができるよう工夫がなされている。 ・ 情報モラルへの対応については、各学年を通して、情報や情報機器を扱う際に気を付けるべきことを扱った教材を掲載するとともに、「学び方のページ」を設けて解説を加えるなど、自らの考えを深めることができるよう工夫がなされている。 ・ 言語活動については、各学年に、自ら考え、他者と意見を交わし、考えを深め広げる「学び方のページ」や思いや考えを可視化する書き込み欄を配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるように工夫がなされている。 ・ 問題解決的な学習については、各学年に、多面的・多角的に学んで道徳的価値を追求する「学び方のページ（深めよう）」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、教材内容を基に、役割演技など体験的な学習活動で考える「学び方のページ（やってみよう）」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは9教材、Dは6教材、Eは3教材、全体

	で37教材であり、総ページ数は136ページで、前回より約6%増となっている。(判型はA4判) 第2学年～ Aは12教材、Bは8教材、Cは9教材、Dは6教材、Eは4教材、全体で39教材であり、総ページ数は140ページで、前回より約6%増となっている。(判型はA4判) 第3学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは6教材、Eは4教材、全体で39教材であり、総ページ数は152ページで、前回より約3%増となっている。(判型はA4判) 第4学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは11教材、Dは6教材、Eは4教材、全体で39教材であり、総ページ数は156ページで、前回より約3%増となっている。(判型はA4判) 第5学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは9教材、Dは8教材、Eは4教材、全体で39教材であり、総ページ数は164ページで、前回より約3%増となっている。(判型はA4判) 第6学年～ Aは9教材、Bは9教材、Cは9教材、Dは8教材、Eは4教材、全体で39教材であり、総ページ数は168ページで、前回より約2%増となっている。(判型はA4判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年に、心に残ったことなどを記入する「心の宝物」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもつたりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年に、家庭生活や地域社会に関わりのある教材を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市について本文と地図、写真1点、それ以外の北海道について本文と地図の掲載が1点ある。 ・第5学年の「太平洋のかけ橋 新渡戸稲造」では、日本と外国の文化のかけ橋となった新渡戸稲造の生き方が描かれた資料である。「太平洋の懸け橋になりたい。」という強い思いに触れることで、その生き方や世界の中の日本に対する誇りをもつことが期待できる教材である。 ・第6学年の「市民に愛される動物園を目指して」では、旭山動物園の元園長である小菅さんを中心人物に、市民に愛される動物園を目指した取組について掲載されている。旭川市に住む子どもたちにとって、馴染みある動物園であるが、その動物園が全校的に有名になるまでの道のりを学ぶことで、より地域に誇りをもつことが期待できる教材である。 ○ ICTの活用については、QRコードを使ってインターネット上の補助教材にアクセスすることができ、教材に関連する写真を見たり、音声を聞いたりして学びを深め広げることができるよう工夫がなされている。 ○ 小・中連携による指導については、第5,6学年の教科書の最後のページに、「学びの足あと」のページを設けており、自分の成長を振り返り、中学校へ進学することができるよう配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、「深めよう」「つなげよう」「広げよう」「やってみよう」の4種類の「学び方のページ」で構成されている。また、見通しをもちながら、様々な考え方を交流できるよう工夫がなされている。 ○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めるため、教材の後ろに書き込み欄が設けられており、自分の思いや考えを可視化しながら、道徳的価値を自分自身のこととして考えることができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が学年1冊で構成されている。

観 点 番 号		発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		232・廣あかつき	第1学年 第2学年 第3学年 第4学年 第5学年 第6学年	道徳110, 道徳111 道徳210, 道徳211 道徳310, 道徳311 道徳410, 道徳411 道徳510, 道徳511 道徳610, 道徳611	みんながえ はなま はなまのどうく1, どうく1 みんな考え 話し合う 小学生のどうく2, どうく1 みんな考え 話し合う 小学生のどうく3, どうく1 みんな考え 話し合う 小学生の道徳4, 道徳1 みんな考え 話し合う 小学生の道徳5, 道徳1 みんな考え 話し合う 小学生の道徳6, 道徳1
取 扱 内 容		○ 主として自分自身に関するもののうち、「個性の伸長」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 友達のよさを、はなまると表した文と絵を教材として、友達や自分のよいところを見付けたり、自分がほめられてうれしかったことを考えたりする活動（「みんなの はなま」） 第2学年～ 鳥たちの学校の転校生のペンギンと鳥たちとの関わりの物語を教材として、飛べないけれども他にできることのよさに気づき、自分や友達のよさを見付けたり、自分のよさを伸ばすことを考えたりする活動（「とべないペンギンくん」） 第3学年～ 友達のよいところを見付け合う活動を進める学級の中で、二人の児童のやりとりを教材として、自分の特徴やよさを考える活動（「いいね！」） 第4学年～ 友達の長所を真剣に考える主人公の心の動きを書いた物語を教材として、自分の特徴に気づき、よさを伸ばすことの大切さについて考える活動（「明の長所」） 第5学年～ サッカー少年の主人公が、足を骨折して入院した際に、コーチとのやりとりなどの中で自分の長所に気付いていく主人公の変容を書いた物語を教材として、自分の長所を伸ばし、短所を改めることの大切さについて考える活動（「グラウンドにひびく声」） 第6学年～ プロテニスの錦織圭選手を例にした心の在り方の変容を取り上げた元プロテニス選手の松岡修造氏を書いた文章を教材として、性格をプラスに考えながら自分らしさを捉える活動（「心は変わる」） ○ 主として人との関わりに関するもののうち、「友情、信頼」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 池の中島で遊ぼうとした動物たちが、泳げないりすから「いっしょにつれていって」と言われて知恵を絞る物語を教材として、友達を悲しませたり、友達とけんかしたりしないで仲良くすることについて考える活動（「およげない りすさん」） 第2学年～ いじわるで乱暴者のきつねが、おおかみに襲われた時に、一度は逃げた森の動物たちがひとかたまりになって、きつねを助ける物語を教材として、友達がいることのよさを考える活動（「森の ともだち」） 第3学年～ 主人公と周りとは話をしながら転校生の関わりの中で相手のこと理解するようになっていくことを書いた物語を教材として、友達と関わり合うことのよさを考える活動（「貝がら」） 第4学年～ 学級の中で運動の苦手な仲間に対する周りの子供たちの心の動きや対応から、最後にはその仲間を励ます子供たちを書いた物語を教材として、友達とよりよい関係を築いていくことについて考える活動（「同じ仲間だから」） 第5学年～ 突然の病気で療養生活に入りながら病気に負けまいと頑張る友と主人公の関わりや感動の思いを書いた物語を教材として、よりよい友情の在り方について考える活動（「友のしょう像画」） 第6学年～ 「罪を犯したかもしれない友人にどのように対応するか」について迷う主人公たちの姿を描いた物語を教材として、友達を信じるとはどういうことなのかを考える活動（「ロレンゾの友達」） ○ 主として集団や社会との関わりに関するもののうち「家族愛、家庭生活の充実」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 家族が関わり合う様々な写真を教材として、家族から大切にされていることや家族のためにしたいことを考える活動（「大すきな かぞく」） 第2学年～ 年をとって体が不自由なおばあちゃんが入浴した際の主人公とおばあちゃんとの関わりを書いた物語を教材として、家族に喜んでもらい嬉しかったことなどを考える活動（「おばあちゃんのおふろ」）			
学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等					

	第3学年～ 入院生活から戻った母の体の体調のことを考えて行動を起こす主人公のことを取り扱った物語を教材として、母を思う主人公の気持ちから家族が協力し合う大切さについて考える活動（「ぼくがいるよ」） 第4学年～ 主人公が生まれた時の様子や両親の思い等を、タイムマシンを使って確かめる漫画を教材として、自分が生まれた時の両親の思いを知ること、両親への様々な思いを考えたり、家族の一員として、家族のためにできることを考えたりする活動（「ぼくの生まれた日」） 第5学年～ 聴覚障害と言語障害をもつ両親に名前を呼んでももらえない辛さを級友とのけんかで気づき、その辛さを両親にぶつけていく主人公に対して手話で心の思いを伝える物語を教材として、両親の願いを知り家族の大切さについて考える活動（「ぼくの名前よんで」） 第6学年～ 最後の運動会で初めてアンカーに選ばれたが、父親が仕事で見に来れなくなり、主人公が落胆・葛藤する物語を教材として、主人公の心の変化や家族への思いについて考える活動（「はじめてのアンカー」） ○ 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関するもののうち「生命の尊さ」については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 第1学年～ 生まれたばかりの弟や父、母の胸の音や父の話を聞いて、気持ちが温まる主人公のことを書いた物語を教材として、気持ちが温かくなった理由を考える活動（「とく とく とく」） 第2学年～ 生きていることを感じる3つの文章と絵を教材として、生きることや命について考える活動（「いのちを かんじて」） 第3学年～ 父親と一緒に鈴虫を育てる中で、命のつながりについて教えられた主人公の物語を教材として、命のつながりを自分の命についても考える活動（「すず虫」） 第4学年～ 交通事故で友達を失った主人公が、友達が残してくれたプレゼントから自らの生き方について考える物語を教材として、友達を失って感じたことや思ったことを考える活動（「お母さん泣かないで」） 第5学年～ 高校生にして日本代表に選ばれたバレーボール選手の闘病生活の様子と、本人が書いた命のメッセージ、その友人が書いた手紙を教材として、闘病中にあっても懸命に生きようとする主人公の思いや命について考える活動（「明日もまた生きていこう」） 第6学年～ 難病の筋ジストロフィーを患い闘病する少年が詩との出会いで自らの思いを伝えたという文章と、少年が書いた二つの詩を教材として、少年の思いや、命の尊さやかけがえのなさについて考える活動（「星への手紙」）
内容の構成・排列、分量等	○ 内容の構成、排列については、次のような工夫がなされている。 ・ いじめの問題については、各学年を通して、様々な内容項目からいじめ問題に結び付く教材が複数掲載され、系統的にいじめに対応する力を育成することができよう工夫がなされている。 ・ 情報モラルへの対応については、高学年では、「情報モラル」に関するコラムが巻末に配置され、安全かつ健康・健全な情報機器の使用のための知識を系統的に学習できるよう工夫がなされている。 ・ 言語活動については、各学年に、児童が学習の見通しをもって自ら課題意識や問題追求への意欲を高める「考えよう 話し合おう」や別冊に、話し合い活動の記録ページを配置し、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などをはぐくむことができるように工夫がなされている。 ・ 問題解決的な学習については、第3学年以上に、児童が学習の見通しをもって問題追求への意欲を高める「学習の道すじ」を配置し、自分との関わりで道徳的価値を捉え、自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるように工夫がなされている。 ・ 体験的な学習については、各学年に、体験を想起させたり、役割演技を促したりする問いや活動を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるように工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、次のようになっている。 ※Aは「主として自分自身に関すること」、Bは「主として人との関わりに関すること」、Cは「主として集団や社会との関わりに関すること」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。 第1学年～ Aは11教材、Bは8教材、Cは10教材、Dは5教材、Eは2教材、全

	体で 36 教材であり、総ページ数は別冊を含め 148 ページで、前回より約 10 %減となっている。(判型は A B 判) 第 2 学年～ A は 11 教材、B は 8 教材、C は 11 教材、D は 5 教材、E は 2 教材、全体で 37 教材であり、総ページ数は別冊を含め 156 ページで、前回より約 5 %減となっている。(判型は A B 判) 第 3 学年～ A は 10 教材、B は 9 教材、C は 11 教材、D は 5 教材、E は 4 教材、全体で 39 教材であり、総ページ数は別冊を含め 164 ページで、前回より約 7 %減となっている。(判型は A B 判) 第 4 学年～ A は 10 教材、B は 9 教材、C は 11 教材、D は 5 教材、E は 4 教材、全体で 39 教材であり、総ページ数は別冊を含め 176 ページで、前回より約 6 %減となっている。(判型は A B 判) 第 5 学年～ A は 11 教材、B は 8 教材、C は 10 教材、D は 6 教材、E は 4 教材、全体で 39 教材であり、総ページ数は別冊を含め 204 ページで、前回より約 7 %減となっている。(判型は A B 判) 第 6 学年～ A は 11 教材、B は 8 教材、C は 10 教材、D は 6 教材、E は 4 教材、全体で 39 教材であり、総ページ数は別冊を含め 212 ページで、前回より約 7 %減となっている。(判型は A B 判)
使用上の 配慮等	○ 自らを振り返るための工夫については、各学年の別冊に、心に残った教材やその理由を記入する「心に残っている授業の記録」を配置し、自らの道徳的な成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりすることができるようになっている。 ○ 家庭や地域との連携を深めるための工夫については、各学年の別冊に、家の人に見てもらったことを記録するチェック欄を設けた「心のしおり」を配置し、家庭や地域社会との共通理解を深めることができるようになっている。 ○ 使用上の便宜については、次のようになっている。 ・道徳の学習の進め方を示すページを設けている。 ・カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントが採用されている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、旭川市については掲載されていない。それ以外の北海道の本文と写真の掲載が 2 点ある。 ・第 5 学年の「時計台の鐘」では、町の真ん中にある札幌時計台が、多くの人々によって守られてきたことが分かる資料である。時計台への人々の思いを通して、郷土を愛する心の大切さについて考えることができる教材である。 ・第 6 学年の「太平洋の橋になりたいー新渡戸稲造ー」では、国際社会で力を尽くす稲造を通して、日本人としての自覚をもち、国際親善に努める大切さについて触れることができる教材である。 ○ I C T の活用については、インターネットを使用することで、関わりのある情報を活用できる教材にはインターネットマークを掲載し、児童の主体的な学びを深めることができるよう工夫がなされている。 ○ 小・中連携による指導については、5 年、6 年の別冊道徳ノートの巻末において、「心のしおり」ページ欄が設けられており、自らを振り返って成長を実感したり、中学校に向けて課題や目標をもつことができるよう配慮がなされている。
本市児童の 学習の状況等	○ 道徳的価値を多面的・多角的に考える力を育むことができるよう、各教材において「考えよう話し合おう」が設置され、話し合う協働的な学習ができるように構成されている。児童は、他者の多様な感じ方や感じ方に触れることができ、多面的・多角的なものの見方や考え方へつなげることができるよう工夫がなされている。 ○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める力を育むことができるよう、内容項目ごとに、その道徳的価値に準じた問いが掲載されており、この問いと向き合うことで、児童は、道徳的諸価値についての理解をもとに自分を見つめ、自己の生き方についての考えをより深めることができるよう配慮がなされている。
その他	○ 各学年が本冊と分冊の 2 分冊で構成されている。